

住宅用火災警報器奏功事例

平成19年3月から令和元年12月までに、市内で発生した「住宅用火災警報器奏功事例」は127件です。その一部を紹介します。



事例1

電気ストーブをつけたまま寝てしまい、近くに置いてあった紙袋に着火し、寝室に設置していた住宅用火災警報器が鳴動。目を覚ました居住者が初期消火、119番通報を実施したものの。

事例2

ブレーカーの遮断と住宅用火災警報器の警報音に気づき、電気機器から火が出ているのを発見。居住者が初期消火し、近隣住民に119番通報を依頼したものの。

事例3

たばこの不始末により煙が発生し、寝室に設置していた住宅用火災警報器が鳴動。就寝中であつた居住者が目を覚まし、119番通報を実施したものの。

事例4

就寝中、寝室に設置していた住宅用火災警報器が鳴動。目を覚ました居住者が台所に向かうと、鍋から火が出ているのを発見し、初期消火を実施したものの。

事例5

灰皿に大量の吸殻を溜めていたため、火が完全に消えずに煙が発生し、居室に設置していた住宅用火災警報器が鳴動。気付いた近隣住民が119番通報したものの。

事例6

携帯電話を操作していたところ、居室に設置していた住宅用火災警報器が鳴動。居住者が室内を確認したところ、ゴミ箱から煙が出ているのを発見し、初期消火を実施したものの。

事例 7

ガスコンロに鍋をかけたまま寝てしまったため、鍋の過熱により煙が発生し、台所に設置していた住宅用火災警報器が鳴動。居住者が目を覚まし、ガスコンロの火を消し、火災には至らなかったもの。

事例 8

てんぷら鍋を火にかけてたままテレビを観ている、火を付けたことを忘れてしまい、てんぷら油から出火し、台所に設置していた住宅用火災警報器が鳴動。気付いた居住者が初期消火を実施したもの。

事例 9

ガスコンロに土鍋をかけたまま寝てしまい、煙が発生し、台所に設置していた住宅用火災警報器が鳴動。気付いた近隣住民が119番通報を実施したもの。

